

受 理 番 号	陳情第 2 1 号
件 名	広島市に、子ども議会及び青少年議会を創設することについて
要 旨	広島市に、子ども議会及び青少年議会を創設することについて、下記の事項を陳情する。 記 1 広島市に子ども議会及び青少年議会を創設すること。 2 その議会に年間数百万円の予算を付けること。 3 それら若者の意見や子どもたちの声を十分に今後の市政に反映させること。 理由 現在、少子高齢化が広島市のみならず全国的な問題として大きく取り上げられている。特に少子化は著しいものであり、人口減少にも歯止めを掛けられていない状況である。そして若者や子どもなどの未来の広島市を担う世代への負担がどんどんと増えているにもかかわらず、市民の生活にとっても重要な市政及び政治への関心や興味が若者から薄れてきており、このままでは将来の市政に大きな悪影響を及ぼすのではないかと考える。若者の選挙投票率も依然低いままであり、原因として選挙やそれに関わる政治、市政というものが身近なものではないということが理由の一つとして挙げられるだろう。夜 7 時前か 1 0 時前に流れる 5 分程度の広報番組や、広報紙「市民と市政」などもあるが、学校の同級生に聞いても「何それ？」であったり、「見たことも聞いたこともない」という声が返ってくる。最近では、テレビや新聞、広報紙などを手にする若者も減っており、動画配信サイトやその他 SNS などから情報を得ることが増えてきている。インスタグラムや旧ツイッターなどには広島市の公式アカウントがあり、広報活動に使われているようであるが、それが実際に広報活動として、若者や若年層の市民に身近な存在として根付き、市政が身近なものとなっているかと言われると微妙である。だが、選挙や市政に興味や関心が湧かないのはそれらが身近なものとして存在していないと認識されていないからで、もっと身近なも

要 旨	のとして感じてもらい、なおかつ今後の市政にも活用するために、私は子ども議会、青少年議会の創設を強く陳情する。 広島市では数年前から、市立高校の生徒が時々市議会にて自分たちが考えた提言を發表するというものがあるが、これはただただ大人たちに自分たちの提案を聞いてもらうだけで、しっかりと市政に反映されているのかと言われても、何とも言えないものであり、実際に發表をした知り合いの生徒から話を聞くと、居眠りをしていたり本当に話を聞いているのか疑うような態度を取っている議員もいたという。それに、広島市に住んでいるのは市立高校の生徒だけではない。県立、私立高校の生徒だって、市政に対して立派な意見や考えを持つ立派な広島市民の一人であるのに、議会に立つ機会すら与えられていない。若い人の意見や市民の声をないがしろにするのはいかなものであろうか。若者たちはとてもしっかりとした立派な提案をしているのに、現在のこの広島市のこの仕組みははっきり言ってちゃんと市民のためになっているとは思えない。他の自治体の事例では、愛知県の新城市では高校生や大学生らで構成される若者議会というものがあり、年間1,000万円までの予算議決権が与えられ、過去には数百万円の予算が実際の市議会でも認められたこともある。他にも山形県遊佐町では少年議会というものがあり、実際に直接選挙を行い少年町長と少年議員を選出するという本格的なもので、年間数十万円の予算を使う権利も与えられている。さらに広島県でも似たようなものがあり、小学校から高校生までの有志を募り、年に一度知事と県議会議長を交えて予算議決権こそないが、幅広い世代との交流や意見交換ができるなど、本格的である。だが、広島市は人口が約120万人もいる政令指定都市であるにもかかわらず、やっていることと言えば市立高校の生徒による市議会での發表のみ。さらに、これも余り身近に浸透しているようには思えない。現在私は市立高校に通う生徒であるのだが、このような活動があること自体全く知らず、この發表自体やりたいと言って気軽に参加できるものでもない。去年の4月に施行されたこども基本法には、全ての子どもについて、その年齢及び発達の程度に応じて、自己に直接関係する全ての事項に関して意見を表明する機会及び多様な社会的活動に参画する機会が確保されることというものが基本理念としてあるが、果たして少子化が進む広島市においてそれを市政にいかすことができているのだろうか。 一番子どもや若者と近く、そして当事者である子どもたちや若者
----------------	--

要 旨	で運営される子ども議会、青少年議会は、子育て支援や過疎化が進む地域課題解決への糸口になると私は強く信じている。物価高で生活に苦しむ同級生や先生、近隣の住民が減り、シャッターだらけになる住宅街の商店街、人口減少や私立高校への人気増加で減っていく公立高校の新入生。これらの問題を放っておけないと感じる高校生や若者は何も私自身に限った話ではないだろう。だがそれらの問題の解決を若者や子どもの視点で進められるのは、若者や子どもたちだけであるはずだ。そして今こそ、彼らの自由で無限に湧き出てくるアイデアと、大人顔負けの行動力をもってして市政に大きく反映させるべきときではないのだろうか。 今年で18歳の大人、現17歳のまだまだ社会においては未熟な私が日々頭の片隅でひそひそと考えていたことではあるが、これからの将来を担う世代の人たちにとっても、広島市にとっても、一人の市民の声として皆さんにしっかりと考えてもらい、今後の市政に反映させていただくよう心から強く陳情する。
------------	---